

H.22.10.12
(有)フォレスト
鍋谷 孝

ワイヤレス型触図筆ペン市場調査

件名：遠き道展 触図筆ペンワークショップ

日時：2010年（平成22年）10月9・10日

場所：大三島美術館(愛媛県今治市) 1階

参加者

遠き道展 実行委員長 森 賢司

香川盲学校 栗田 晃宜

特総研 土井 幸輝

(有)安久工機 田中 隆・田中葉子

カメラマン 森谷 修

(有)フォレスト 鍋谷 孝 高田栄一

調査の目的

1. 従来型触図筆ペンの使い勝手の確認
2. ワイヤレス型触図筆ペンの形状調査
3. 触図筆ペン 普及促進のための調査
4. その他

10月9日開催 遠き道展 ワークショップ

対象者 視覚障害者（全盲、弱視）

付添い者 1回10名 2回開催

施設ならび学校関係者

1. 遠き道展ワークショップ概要

1回 約 45分

会議用テーブル（450×1800） 従来型触図筆ペン各8台

ビーボ（コード付きタイプ）2台

テーブルには折りたたみ椅子 参加者2脚 画家用2脚 ボランティア用2脚

画用紙（右上に○△□を触図ペンで事前に描いたものを用意）

みつろう、たけひご、木のへらを用意

参加者： 四国市内の視聴覚障害者 1回 10名参加 2回開催

指導者： 遠き道展出展者 画家を中心にボランティア 1名につき5名程度

アシスタント及び調査： 栗田・土井・田中隆、葉子・高田・鍋谷

進行

主催者森氏のあいさつ後、香川盲学校の栗田先生の説明後、それぞれのテーブルにて

画家の方々が説明をする(画家の方々は、触図筆ペン経験者が殆ど)。
その後、各テーブルでワークショップ開始。約45分間で製作をする
普及促進の観点から考える遠き道展ワークショップについて

1.参加者ならびに関係者にたいして触図ペンについてのアピールの改善

参加者、ボランティアが満足したことは十分に評価することである。

しかし、参加者、ボランティアに触図筆ペンを利用してもらい、広めていただく
方策をする必要がある。

① 開始前の告知 開始する前に、あらかじめ触図ペン説明担当者をきめておく。
栗田先生もお話したが、触図ペンの説明が少なかったため、判りにくかったかもし
れない(道路事情で参加者の到着が遅れスタートが遅れたのも原因のひとつ)。

② 開始後のふりかえりとまとめ

参加者の声を全員で聞く場が欲しい。それぞれの参加者、関係者のよるこびの声を
聞くことでさらに共感の輪が広がる。その中で、栗田先生、田中氏の触図筆ペンの
開発話なども含め、また購入現状の厳しさもアピールする。

20～30分程度は必要であると思われる。

③ ボランティア、画家先生の触図筆ペン体験

今回は参加者中心だか、関係者の理解を深めるためには関係者自身の体験、体
感が必要である。そこで、コースターなどの小さなものに

みんなで描く時間も必要。より参加者との共感が広がる。

また、関係者が持ち帰るものができることで、記憶が深いものになり、また
他社への説明ツールになり、普及・知名度拡大の手段となる

④ 必要ツール

※特製コースターの製作 上記のボランティアが持ち帰るものとしてコースター
が最適ではないか。表面は体験用として無地。裏面には触図ペン、安久工機の情報
を印刷する。(裏面はスポンサーとタイアップも可)

※写真パネルの設置

触図筆ペンを使った盲学校の授業風景、ライオンズクラブの盲学校への寄贈風景な
ど→実際に使っている場面を視覚化し、関係者の理解を深める

※将来的には簡単なパンフレット

⑤カリキュラム案

以上のことから、ワークショップも 1回90分程度×1回～2回/日

タイムスケジュール

主催者あいさつ 5分

ワークショップ進行係から5分 (ワークショップの内容と触図ペンの簡単説明)

ワークショップ 50分 (コースターの時間も含め)

感想やお話 30分

2. 開発モニター コード付きビーボタイプについて

① みつろう君にくらべ、線の細かいところまで描ける

ミリ単位の表現も可能

従来型より細かい表現ができることで利用者の表現力がアップする

(指導いただいた画家)

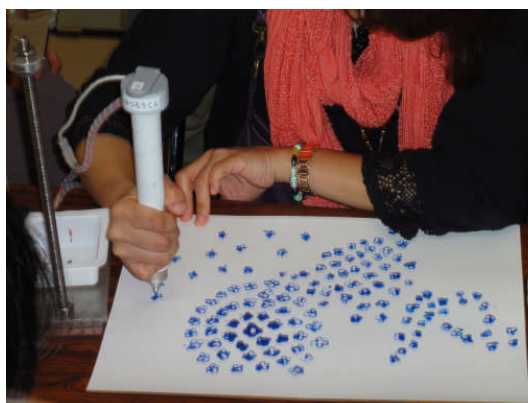
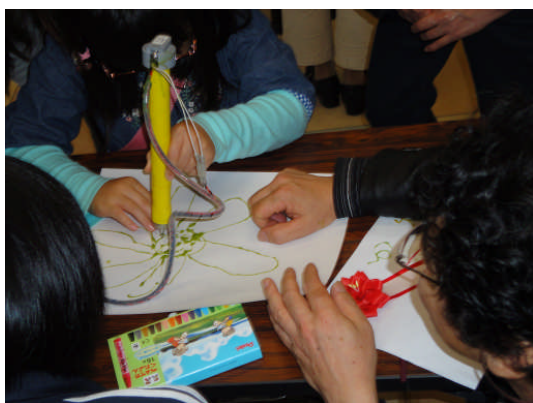
② 先端部分が熱さを感じる。やけどするほどではないが、最初に触れると少し驚く人もいる。→前もって十分な説明が必要

③ ペン先周辺指先があたる部分の遊び 熱さとともにボールペンの指先部分にあたる部分にやわらかさが欲しい (松山盲学校教諭)

→断熱効果のあるゴムキャップ等

④ 蜜蝋のたれ ペンを斜めにするとペン内部に入っているみつろうがたれてしまう。

→改造必要



ワークショップ風景



遠き道展 — 縦と横の競演 —

平成22年 10月9日(土)~12月23日(木・祝)

休館日：毎週月曜日(ただし10月11日は開館し、12日休館) 村上三島記念館会場は11月2日、3日休館

開館時間：9時~17時

観覧料：共通観覧券 一般800円、大学生・高校生640円、中・小学生400円

※一会場のみ入場の場合、一般500円、大学生・高校生400円、中・小学生250円

※障害者手帳をお持ちの方及びその介助者1名は無料

主催：今治市・今治市教育委員会 主管：遠き道展実行委員会 後援：厚生労働省・文化庁・社会福祉法人日本ライオンハウス・全国百学校長会・愛媛県・愛媛県教育委員会・愛媛県文化協会・今治市文化協会・愛媛新聞社・毎日新聞松山支局・読売新聞大阪本社・朝日新聞松山総局・産経新聞松山支局・日本経済新聞松山支局・NHK松山放送局・南海放送・テレビ愛媛・あいテレビ・愛媛朝日テレビ・今治CATV・FM愛媛・愛媛県社会福祉協議会・今治市社会福祉協議会
推薦…国際ロータリー第2670地区(愛媛・香川・高知・徳島)ロータリークラブ・くずはロータリークラブ

(上)西田俊英「月光華」1990年 (下)松生歩「天地を結ぶもの」2005年

縦構図作品展示会場

今治市大三島美術館

〒794-1304 今治市大三島町宮浦9099番地1 TEL.0897-82-1234

横構図作品展示会場

村上三島記念館 (今治市 国史民俗資料館)

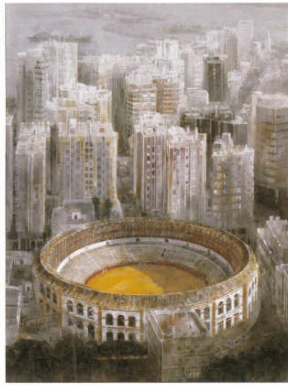
〒794-1402 今治市上浦町川17505 TEL.0897-87-4288



遠き道展パンフレット(表)



海老洋「白壁」 2005年



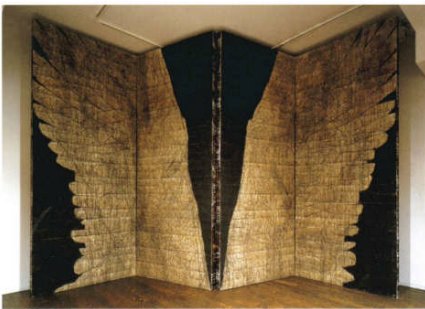
中町力「闘牛場の見える街」 2006年



仲裕行「旅立ち」 2002年

絵には縦構図と横構図があります。日本では掛軸という形式が、寺社仏閣の仏画に始まり、床の間の装飾品として広く用いられたことで、伝統的に縦構図の絵が多く描かれ、日本人に愛されてきました。建築様式も変わり、額絵が増えた現代では、横構図が主流になりましたが、公募展では縦構図の作品が多く出品

されます。それは、絵を大きく見せ、存在感を増すよう、各作家が受賞を目指して工夫しているからに他なりません。一方、横構図は横の広がりから作家にとってよりダイナミックな作品を創作できます。今回の今治会場では、縦構図と横構図の作品に分けて展示し、両構図の違いによる絵の魅力をぜひお感じください。



岡村桂三郎「迦楼羅07-2」 2007年



清水由朗「貿易風」 2006年



高橋天山「ザンスカール」 1993年

今治市大三島美術館

〒794-1304 今治市大三島町宮浦9099番地1 TEL 0897-82-1234

村上三島記念館

〒794-1402 今治市上浦町井口7505 TEL 0897-87-4288

【会期中の催しもの】

会場：今治市大三島美術館

ワークショップ・鑑賞ガイドツアー (視覚にハンディキャップのある方向けです)

平成22年10月9日(土) 12時～14時 定員10名

講師：栗田晃宣さん(香川県立盲学校教諭)・田中隆さん(有限会社安久工機)
海老洋さん(広島市立大学准教授)・岡村桂三郎さん(多摩美術大学教授)
北田克己さん(広島市立大学教授)・高橋天山さん(日本美術院評議員)
西田俊英さん(広島市立大学教授)・福井爽人さん(東京藝術大学名誉教授)

※要予約。tukimichi@mail.goo.ne.jpまでご連絡ください。

ギャラリートーク

※本展の観覧券または半券が必要です

平成22年10月9日(土) 11時～12時

参加作家はホームページをご参照ください。

【交通アクセス】

【マイカーで】

◆瀬戸しまなみ海道 大三島IC下車し、村上三島記念館までは約2分、大三島美術館までは約15分

【船で】

◆忠海港(広島県竹原市)
村上三島記念館までは忠海港＝盛港(フェリー)(20分)
→盛港＝美術館(タクシー利用)約10分
大三島美術館までは忠海港＝盛港(フェリー)(20分)
→盛港＝美術館(タクシー利用)約15分
◆今治港
大三島美術館までは今治港＝宮浦港(快速船)(60分)
→宮浦港＝大三島美術館(徒歩10分)

【バスで】

◆広島 広島バスセンター＝大三島BS(約120分)
◆福山 福山駅＝大三島BS(約60分)
※村上三島記念館までは大三島BSから徒歩10分
※大三島美術館までは大三島BS＝美術館(路線バス利用)(約15分)
◆今治
村上三島記念館までは今治駅＝大三島BS(約50分)、徒歩10分
大三島美術館までは今治駅＝大三島BS(約60分)
◆松山
村上三島記念館までは松山市駅＝大三島BS(約130分)、徒歩10分
大三島美術館までは松山市駅＝大三島BS(約140分)

【お問い合わせ】今治市文化振興課：TEL 0898-36-1608 《遠き道展公式ホームページ》<http://www.geocities.jp/artmuseumjp/index.html>

出品予定作家

(五十音順)

浅野 均
荒井 経
稲元 実
梅原 幸雄
海老 洋
岡村桂三郎
尾長良範
加藤 晋
加藤 東一
川崎 麻児
岸野 圭作
北田 克己
小嶋 悠司
小谷津雅美
坂本 藍子
清水 由朗
新恵美佐子
仙崎 誠
高橋 天山
武田 州左
土屋 禮一
仲 裕行
中町 力
那波多目功一
西田 俊英
西田 真人
西野 陽一
長谷川 喜久
伴戸 玲伊子
平川 敏夫
平山 英樹
福井 爽人
マコトフジムラ
間島 秀徳
松生 歩
宮 いつき
山田 毅
吉川 優
依田 万実

遠き道展パンフレット(裏)